

## 2024年度 職員の研修報告①

新学期が始まったばかりの5月～6月に、職員がそれぞれの学びたい分野を選んで研修会に参加しました。研修に参加すると様々な学びがあり、その学びを元に自分の保育を振り返ったり、新たな学びを保育に活かしたりしていこうと気持ちが引き締まる思いです。

港南台幼稚園の職員は、研修に出席すると研修報告書を書いています。その一部をご紹介します。

### ★第1回教員研修 5月20日(水) 第二分科会「保育の難しいお子さんへの関わり方」

#### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・早期発見、早期介入の重要性を改めて感じた。また、保護者へ伝えることの難しさ、子どもへの支援だけではなく、保護者に対しても理解し支援していく必要があると感じた。
- ・子どものどこを見るのか、というポイントを学び、その子に合った支援をしていきたいと思う。叱ったり否定的に伝えたりするのではなく、肯定的に伝えること、一番つらいのは本人であるということを理解し、関わり方を工夫することで自己肯定感をあげることの大切さを改めて学ぶことができた。
- ・感覚過敏が意外に身近にあるものだと思った。当人は“みんなこういうもの”と思って我慢していることを知り、気付かないこと、知らないことの怖さを感じた。
- ・子ども自身の辛さや本人が感覚過敏で気付きにくい理由など、その子の感じ方に着目することが大切だと気付かされました。手が出てしまう子は自分の行動に気付いていないことがある、という話を聞いて、子どもは行動のほとんどを意図的にしてるものと思っていたので、これから関わる上で大切なことを学びました。
- ・愛着障害がある子どもの多くに脳の障害があることが多く、2歳までに愛着関係は修正できるが2歳以上になると元には戻らないということを学んだ。
- ・感情、情緒を育てるにはオノマトペを利用したり、擬態語と動きを一致させるようにするとよいということや手が出てしまったときには、「〇〇君の手よく動くね。止められるかな？」などと否定しない声掛けをし、止められた時に褒めることを忘れないようにすることも大切だと感じた。
- ・クラスの環境作りは過敏差があるため統制していくのは大変だが、子どもの様子をしっかりと見取り、対応していく大切さを知った。

#### ○保育へどう活かしていくか

- ・個々の姿を見極め、どのように支援するのが考えていきたいと思った。保育者間で話し合い、対応の仕方も統一していきたいと思った。また、子どもだけでなく、保護者の方も苦悩されていることをしっかりと受け止め、保護者支援をしていく必要があると感じた。

- ・子ども自身の感じ方や困り感がどのようなものであるかを考え、どうすればその子が過ごしやすくなるかということを中心に、環境設定や日々の保育をしていきたいと思った。
- ・今回の研修で出た手立ては今まで保育の中でやっていた手立ても多くあり、改めてその大切さがわかった。また、今回新しく知った手立てもあったのでこれからの保育に活かしていきたい。
- ・環境刺激を押さえるための工夫や、子どもを見るポイントなどを知り、今後のサポートの仕方をより具体的に見ていくことができそうだと感じました。
- ・こだわりについては日常生活に差支えがなければそのままにし、代替を見つけたり環境統制をしてあげるようにしたい。
- ・痲癢があったり、手が出る子に対して「だめ」と叱るのではなく、違う話題に気をそらしたり、嫌だったことを認めていく。少しでもできた時には褒めていく。特別扱いはせず他児と同じように関わるが、クールダウンできる場所を作り刺激の少ない落ち着ける環境を大切にするようにしたい。

## ★第2回港南支部教員研修 6月12日(水)「絵本で伝える愛情体験」

### ○学んだこと・新たに知ったこと

- ・認知能力ばかりを育てようとしてしまう大人が多いが、非認知能力（意欲や好奇心などの目には見えない力）が生きていく土台、根っこである。特に幼児期は言葉の分野では「読み」「書き」ではなく「聞く」「話す」を大切に育てていくべきであるということを知った。
- ・人間の親にしかできないことは、言葉で目には見えないお子さんの心を抱きしめてあげることである。子どもは絵本の絵を自分のことに置き換えている。絵本の登場人物が嬉しい気持ちになると、自分も同じようにうれしい気持ちになっているということを知った。
- ・絵本は想像力を育て、想像する力が人生を豊かにし、読んでいるうちに絵本の内容の体験ができるということや絵本を保護者や保育者に読んでもらっている時、子どもは「自分は大切にされている」と感じている。言葉の伝わり方は言葉そのものより、表情や声が7割を占めるということを知った。
- ・絵本を通して非認知能力が育つことを知った。いつも忙しくしている親だったり保育者が、腰を下ろしてその子どもに対してゆっくりと優しくあたたかい声で読み聞かせをしている時間は、大切にされていると感じる幸せな時間であるということを知ることができた。

### ○保育へどう活かしていくか

- ・これまでも読み聞かせは大切にしてきたが、表情や声の大きさ、トーンなどをより意識していきたいと思った。「もっと聞きたい」という素材あってこそ聞く耳が育つということなので、絵本選びから読み終わりまでの時間を「愛情を伝える時間」として大事にしたいと思った。

- ・絵本の大切さを改めて知った。絵本を読んでもらっている子は絵本の中の子どもの姿に自分になっているということもあるので、読む時間を大切にしていきたいと思う。
- ・絵本で聞くこと、話すことが育ち、言葉の発達にもつながっていくので、内容も考えながら絵本選びをしたい。
- ・「絵本を読んで」と立て続けに言われるときに、いつも1冊だけでおわりにしてしまったり、どこか心が焦っているなと感じた。心に余裕を持って子どもたちとゆっくり腰を下ろして絵本を読む時間を持ちたいと思った。